

12:15 喜ぶ者といっしょに喜び、泣く者といっしょに泣きなさい。

12:16 互いに一つ心になり、高ぶった思いを持たず、かえって身分の低い者に順応しなさい。自分こそ知者だなどと思っていけません。

12:17 だれに対してでも、悪に悪を報いることをせず、すべての人が良いと思うことを図りなさい。

12:18 あなたがたは、自分に関する限り、すべての人と平和を保ちなさい。

12:19 愛する人たち。自分で復讐してはいけません。神の怒りに任せなさい。それは、こう書いてあるからです。「復讐はわたしのすることである。わたしが報いをする、と主は言われる。」

12:20 もしあなたの敵が飢えたなら、彼に食べさせなさい。渴いたなら、飲ませなさい。そうすることによって、あなたは彼の頭に燃える炭火を積むことになるのです。

12:21 悪に負けてはいけません。かえって、善をもって悪に打ち勝ちなさい。

「喜ぶ者といっしょに喜び、泣く者といっしょに泣く」というが、愛する者のあり方です。人と同じように感じることであれば、その人を愛することになるでしょう。これは愛の目標でもあります。

しかしまたこれは難しいことでもあります。おそらく人間の力や努力ではできないことで、聖霊によって初めてできることでしょう。

「高ぶった思い」は、一つ心になる一致を壊します。自分の考えが最善と信じて、人の考えを受け入れなくなるからです。自分と違う意見によく耳を傾けましょう。

誰でも人から悪を受けるときがあります。それに対して同じものを返してやろうとは思わずに、逆に、善で報いてやろうと思うことができれば、その人は信仰の人です。私たちは神を介して関わっているからです。

どうしても相手が赦せないというときは、復讐してやりましょう。ただしそれを自分でするのではなく、「神の怒り」による復讐です。相手に良くしてあげることは、神様からの報いを大きくすることになるのです。神様が公正にさばいてくださるからです。もしも自分でやり返してしまったり、神様は「復讐」してくださいません。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

